



かるがも



第48号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2018年〈平成30年〉5月

新年度を迎えて

新年度を迎え、ご挨拶とご報告を申し上げます。

3月末に例年より早い満開の桜の下で転出、退任する70名の職員に別れを告げ、4月には新規採用者と転入者、合わせて84名の新しい仲間を迎えました。局長以上の幹部職員につきましては、事務局長として早川直樹にかわり水貝昌弘を迎えました。伊藤千秋副病院長（医療安全担当）、青墳裕之技監：病院長補佐（経営戦略担当）、中島弘道医療局長（地域医療連携担当）、高井孝子看護局長に変わりはございません。

平成30年4月からの診療体制の変化について、3つご紹介いたします。まず、先天性心疾患等、小児循環器疾患の診療体制の強化についてです。胎児超音波診断に経験豊富な東京女子医科大学石川徹子講師を循環器科主任医長に迎えました。また、東京医科歯科大学小児科から医長、東京大学小児科からレジデント医の派遣を受けました。心臓血管外科、循環器科、新生児・未熟児科、集中治療科がひとつのチームとなり、重症心疾患小児の診療に、これまでにも増して力を入れてまいります。

次に、炎症性腸疾患等の小児消化器疾患診療の強化です。これまで消化管内視鏡検査は小児外科にて行っておりましたが、昨年度より小児救急総合診療科においても小児外科と協力しながら上部・下部の内視鏡検査を開始いたしました。徐々に検査件数も症例数も増えております。炎症性腸疾患が

病院長 星岡 明



疑われる症例は、どう

ぞ小児救急総合診療科

（主任医長：倉繁款子）

あるいは小児外科（部長：光永哲也）までご紹介ください。

3つ目は、遺伝診療センターの立ち上げです。朽方豊夢遺伝科医長、秋山奈々認定遺伝カウンセラーを核に、臨床遺伝専門医の資格を持つ代謝科の村山圭部長、耳鼻咽喉科の仲野敦子診療部長等も加わり、遺伝診療センターとしての活動を開始しました。かずさDNA研究所、千葉大学遺伝子診療部との協力体制をさらに強化し、県内における遺伝診療の拠点となるべく努力いたします。

なお、今年度も中島弘道医療局長が室長を務める地域医療連携室が主体となり、県民公開講座、千葉県小児臨床症例研究会（公開カンファレンス）を開催し、また、本誌「かるがも」等にて地域の皆様、登録医の皆様への情報発信を行います。

当院は2018年10月に開院30年を迎えますが、これからも県内の小児医療の拠点として、専門性の高い医療、質の高い医療、安全安心の医療の提供に力を尽くす所存ですので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

平成30年5月

研修会・公開講座のお知らせ

●第12回千葉県小児臨床症例研究会

日時：平成30年6月20日（水）

19:30～21:00

会場：千葉県こども病院 第一会議室

内容：＜ご紹介いただいた患者様の症例報告＞

腎臓科「トスフロキサシンにより急性腎不全を発症したと考えられた1例」

＜小児診療における各科のポイント＞

血液・腫瘍科「凝固検査結果のpitfall」

小児外科「慢性腹痛の鑑別診断－炎症性腸疾患を見逃さない－」

●訪問看護ステーション公開講座

日時：平成30年7月10日（火）

17:45～19:00

会場：千葉県こども病院 第一会議室

内容：「複数の医療的ケアが必要な子どもの在宅支援」

●平成30年度第1回児童虐待防止研修会

日時：平成30年7月22日（日）

14:00～16:30

会場：千葉県医師会館

内容：「地域で取り組む児童虐待への対応と実践」

～子どもの安全を守る

ネットワークの構築を目指して～

●第19回千葉県こども病院県民公開講座

日時：平成30年9月29日（土）

14:00～16:00

会場：千葉商工会議所 第2ホール

内容：「ちょっと気になることばの遅れ」

講師：千葉県こども病院 診療部長（耳鼻咽喉科） 仲野敦子

千葉県こども病院 精神科部長 安藤咲穂

千葉県こども病院 言語聴覚士 猪野真純



診療科紹介
形成外科

部長
鈴木 啓之



形成外科で診療している疾患について

こども病院形成外科では小児形成外科分野指導医2名とレジデント医師、そして非常勤医師で治療に当たっています。主たる診療対象疾患は体表の先天異常です。外傷はマンパワー不足で十分対応できないのが現状です。

先天異常の中でも口唇口蓋裂を多く手術しています。厚労省の統計で昭和大学病院に次ぐ全国2位の手術件数です。口唇口蓋裂は唇裂初回手術に始まって口蓋裂手術、顎裂(歯茎の裂)骨移植など複数回の手術を施行します。そして、チーム医療による総合的な診療が必要で、耳鼻科、小児科各科、歯科、言語聴覚士が主なチームといえます。矯正歯科は院外施設と連携しています。また、副

耳、先天性耳瘻孔、埋没耳、小耳症などの耳介の先天異常、脳外科と合同で行う頭蓋骨早期癒合症の手術もあります。多指症、多合趾症のような手足の先天異常も多く治療しています。皮膚良性腫瘍や大きなホクコ(色素性母斑)の手術も実施していますが、各種のレーザー治療は対応しておりません。胸腔鏡を用いた漏斗胸手術なども本邦に導入された当時から実施しております。現在年間手術数は400件ほどに増加しており、こども病院でもっともたくさん手術を行っている診療科となっています。

表:最近の手術実績

	全麻入院手術	局麻外来手術
外傷		
顔面外傷(軟部損傷)	2	
上肢下肢の外傷	1	
先天異常		
口唇口蓋裂	132	
頭蓋、顔面の先天異常	74	2
手足の先天異常	67	1
漏斗胸、ヘソヘルニア	21	
皮膚腫瘍	85	20
癒痕拘縮、ケロイド	10	3
炎症性疾患		1
その他	1	
合計	393	27

診療科紹介
内分泌科

部長
数川 逸郎



内分泌科は医師5名で、数川逸郎(内分泌科部長、内分泌代謝専門医指導医、日本小児内分泌学会社員)、島崎俊介(内分泌科専攻医)、斐牧子(内分泌科専攻医)、森香子(内分泌科専攻医)、皆川真規(診療部長、内分泌代謝専門医指導医、日本小児内分泌学会理事)です。皆川診療部長は幹部職員として病院管理業務を主とし、数川が診療科責任者として診療・調整・教育等の診療科運営を担当しています。専攻医たちは丁寧な診療を心掛け熱心に勉強していて、いずれも期待の新星です。外来延べ患者数は年間約5600名です。特に小児糖尿病は約100名の患者を管理しています。糖尿病はインスリンポンプや皮下連続式グルコース測定等のデバイス類の進歩が著しく、これらの導入を積極

的に進めています。糖尿病療養指導士の看護師が細やかな患者家族のケアをしています。内分泌疾患の診療は注射や血糖測定といった「穿刺」を要し、治療を生涯継続しなければならないことがあります。そのためこども達が抵抗なく治療開始できるようにチャイルドライフスペシャリストとの連携を始めております。やがてこども病院を卒業し成人医療機関へ移行する時期がきます。疾患を理解し自己管理できるようにする成人移行期支援も始めており、その一環として中高生を対象とした糖尿病教室を開催しました。また、小児外科、泌尿器科、脳外科、耳鼻いんこう科、整形外科等の外科系診療科と連携して診療を行っています。希少疾患の診療では理事・社員として学会に参加し、そのネットワークから診断治療の最新情報を得ることができるのも特徴です。以上拙文ですが当科の紹介をさせていただきました。どうぞお気軽にご用命ください。



〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

こんだこども医院

〒266-0032 千葉市緑区おゆみ野中央1-25-7
TEL 043-291-1991 FAX 043-291-1996

こんだこども医院院長の今田です。私は昭和58年（1983年）に千葉大学を卒業した後、大学病院を始め県内のあちこちの病院で研鑽を積み、昔ながらの町医者を目指して平成12年に千葉市緑区おゆみ野に診療所を開きました。同じ地域のこども病院には、入院や外科系疾患の患者さんを数多く受け入れていただき、安心して日々の一次医療を担うことができます。この場をお借りして御礼申し上げます。当院では具合の悪いお子さんの診察や喘息などの定期受診が中心の一般外来、就学前のお子さんを対象に健診と予防接種を行う保健外来、糖尿病・低身長・甲状腺・思春期異常などを診察する週2回の内分泌専門外来の時間帯を設けています。内分泌外来には市外は勿論、県境を越えて遠くから受診される患者さんもいます。大学病院時代から20年以上もお付き合いいただいている患者さんの場合は、いつの間にかパパママになってお子さんと一緒に受診することもあるので、

診療時間

一般外来
毎日 9:00~12:00
月・火・木・金 15:00~18:00
保健外来
月・火・木・金 14:00~15:00
専門外来
水・土 14:00~17:00

休診日 日曜日・祝祭日



今田 院長

「ジジイ」になったような気分です。また、春先になると小児科を卒業したお兄さん、お姉さんが久しぶりに「医療系の大学に入るので抗体検査をして欲しい」と受診することもあり、長年勤めているスタッフと一緒に小児科冥利に尽きると嬉しくなる瞬間です。緑区は市内で最も子ども人口の割合が多い地域で近隣にも小児科クリニックが複数あるので、今後お互いの関係プレーでお子さん達の健やかな成長を見守っていきたいと思います。



待合室

医療法人社団 武光会 つばきこどもクリニック

〒260-0001 千葉市中央区都町2-16-6
TEL 043-214-1138 FAX 043-214-1139

いつも大変お世話になっております。つばきこどもクリニックの椿俊和です。2004年4月に開業して14年になります。こども病院アレルギー科在職中は、紹介を受ける立場でしたが、現在はその逆になり、いつも快く紹介の相談にのっていただけて非常に助かっています。

開院当初より、水・木曜日は当時アレルギー科の医員であった舘野規子医師に手伝ってもらい、2診体制で外来対応をしています。また、当院の看護師5名もこども病院の出身です。

地域プライマリーケア医として、感染症などの急性疾患はもとより、予防接種や乳幼児健診などの保健業務、そして、夜尿症や専門分野であるアレルギー疾患などの慢性疾患をできる限り診察していますが、入院治療や他科のコンサルトが必要な場合には、ご紹介させていただいております。

また、集団生活に適應できない子どもに対して家族

診療時間

9:00~12:30
(土曜日は13:30まで)
14:00~18:00
(水・木 14:00~15:30
予防接種・乳幼児健診)

休診日

火曜日・土曜日午後・日曜日・祝祭日



椿 院長

が対応困難なケースや家族のトラブルが子どもの精神面に影響しているケースが大変多いため、2010年より心理カウンセリング外来を毎週金・土曜日に行っていますが、予約が取りにくい状況になっています。

これからも地域に根付いた小児プライマリーケア医を目指していく所存ですので、バックアップをよろしく願いいたします。



外観